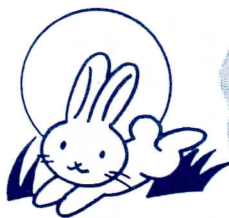




# お ち ほ

第20号 平成6年10月9日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一



## ありがとう 杉東さん

### お月見会

落穂寮の厨房で働く優しそうなお姉さんを知っていますか。名前を杉東由子(すぎとうよしこ)さんと言います。実は杉東さんは同じ石部町内にある「あざみ寮」の寮生さんなのです。歳はその若々しい容姿からは想像もつかないのですが、既に60歳を越えているのです。その杉東さんが落穂寮の厨房に働きに通り始めて20年になると言います。そしてその努力を讃えられ、この6月、滋賀県教育福祉振興大会の席上、滋賀県手をつなぐ親の会から表彰されました。

9月10日に行われたお月見会では、まず寮から杉東さんへの感謝状の授与と記念品、花束の贈呈が行われました。杉東さんはそれに応えて、「これからも毎日歩いて通ってきます。」と力強く答えてくれました。

お月見会はその後、皆で焼肉を食べ、ボランティアの皆さんや職員の出し物を見た後、花火をして楽しみました。飛び入り参加で舞台上上がる人や、客席のほうに向かって飛んでくるロケット花火などハプニングもあったものの、寮全員が集まった久々の行事となり、大いに盛り上がりました。ただお月見とはいえ、当日は満月ではなく、三日月が空に浮かんでいるのが玉にキズでした。



# 手洗いのさじかげん

寮長 山下陽一

今年の夏は記録的な異常気象だったそう、連日連夜「暑い！」ということばをつい口にしておりました。肉体的にも精神的にもあまり頑健ではない私にとっての苛酷な夏は「夏」酷でした。

さて、五月末に発症しましたA型肝炎は私達を支えていただいている皆さんに、大変なご迷惑とご心配をおかけしました。終息したのは九月に入りましたので、三か月以上にわたり、次々と感染発症を繰り返しました。しかし、一つの生活棟のみに押さえ込むことができず、落穂寮のホームドクターの武田先生、入院先の石部医療センターの野村先生、水口保健所長の山本先生には大変なお世話とお骨折りをいただき、感謝もことばでは言い尽くせない気持ちです。

この肝炎ウイルスの多くは便に排出され、なんらかの経由で口に入り感染し発症します。寮生の症状を見ておりますと、感染から発

症までは約四週間あり、発症すると三十九度近い発熱、急速な食欲の落ち込みなどがあり、気付いたときは、感染力が一番強い時期が終わっているという始末の悪さです。感染を防ぐため消毒に力を注ぐわけですが、その効果は、次の発症ではなく次の次の発症にそれが現われるといった、まるで日々がチェーンのはずれたペダルを踏み込むような思いでした。そのよゆうな中、寮生も職員もまさに一丸となり幾重も押し寄せる波をなんとか乗り越えたという思いがしています。

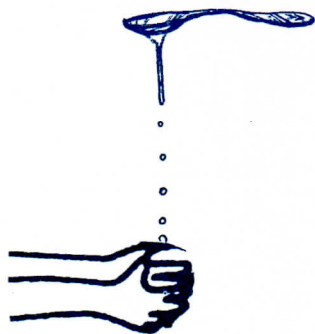
感染を防ぐために消毒をおこなうわけですが、これがまた大変なことでした。方法は示されていて具体的に実施することがどれだけ至難のわざだったことか。いつもは食事の前にオスバン液を用意して手洗いをしていますが、急な敵しい消毒体制に寮生たちも職員もとまどいぎみで、どの程度まで行なうと実効があるのかわかりま

せん。一度消毒した手もあれこれ触っていると汚染され、それが口に入ることになりす。感染と消毒が繰り返されるものの、生活と敵しい衛生の板ばさみに陥ることがしばしばでした。やはり寮生と私達の生活は急になにか新しいことをしなければならぬのが極めて苦手で、そのような時のために日常衛生や清潔にする感覚を身につけておかなければならないことを実感させられました。そうかといつてあまりに過敏な清潔感覚では実際の生活はできませんし、ごちないものになるでしょう。その場に應じた消毒のさじ加減のむつかしさを思いました。

家庭で子どもが生活し育っていきうちに思ってもいない事がさまざま起こってくるものです。最近、昔の在寮生が交通事故で亡くなりました。親ごさんのやるせないお悲しみはひととおりでなかったことでしょう。私達は一日も早く悲しみが癒されることをお祈りしております。

生活は突然予想さえしなかったことが起きてきます。もちろん悲しい事や苦しいことばかりではなく、愉快なことやこころ暖まる思

いをすることがあります。落穂寮は六十人も一緒に生活しているの毎日違います。その体験の一つひとつを肥やしにしてうるおい豊かな生活を築いて行きたいと思っております。ある時は思わぬ事で窮地に陥ったりしましたが、そんなとき皆さんの力をお借りしてその窮地を脱したりしながら今日までやってきました。この肝炎感染がまさにこれでした。皆さんのおかげをひしひしと感じました。落穂寮の今後にどんな事が起こるか予想できませんが、寮生達、保護者の皆さん、直接間接におつき合をいただいている皆さんの陰陽のご支援や協力をいただきながら少しでも前進したいと思っております。





# 肝炎の発症に思う

嘱託医 武田 学

思いがけないことであった。

その昔、或施設で多数の赤痢患者がでて混乱を来たした経験がある。今回の肝炎は法定伝染病でないにしても、収容施設中での発病は外へ漏れることは少いが、内で続発する危険が大であり、之が第一の不安であった。

予想通り同じ棟で十数名の患者が出たが、棟を隔離した為他の棟には少なかった。

然し休暇を控え、入院する寮生達の看護、残っている人達の監視、之に加えて例年になく酷暑の為、職員が疲労困憊して感染、或は過労で倒れないか……。之が第二の不安であり現実には三名の職員が罹

消毒を厳重にする事は常識であるが、寮生達に徹底して実行させることは、まづ不可能である。実際に手洗いやお尻の清潔等、一々目

## 知的ハンディを持つ人達の治療に際して思うこと

石部医療センター院長 野村 康之

みなさん、こんにちわ。

このたびのA型肝炎の流行におきましては、罹患した寮生はもろんですが、特に職員の方々にたいへんご苦勞様でした。障害児や乳幼児の施設などにおいて、こうした感染症がいったん発生すると、流行を防ぐことは極めて難しいということがあらためてよくわかりました。

ふだんは寮生さんとは時に外来

で接するだけです、入院されて

保母の先生がいろいろと世話を

されているのを拝見して、そのたい

へんさがよくわかったと同時に、

障害児に対する深い理解と愛情が

なければとでもできることではな

いなど思いました。職員のなかにも肝炎に罹られた方がありましたが、それだけ一生懸命話をして

を光らそうにも職員の手が廻らない。患者は増える、疲れる。職員の中に動揺が起らないか。指導する私達も悩んだが、皆良く頑張つて、頭の下がる思いがした。幸、休暇前に流行の峠を越した感があり、正直なところホッとしました。帰省中に発生、そのご家族から発病の連絡もなく終息をみたことは喜びにたえない。今回の流行に際し、お忙しい中ご指導を賜った水口保健所の皆様、治療を担当して戴いた石部医療センターの皆さんに厚く御礼を申し上げます。

私には日頃、おもに子どもを診療

## 行事特集

6月

おほらいは、したけれど……

プール開き  
6月18日。肝炎が発症した頃、

これ程までとは思わず、「プールに入れるやろ。」そういう甘い考えでおほらいはしたけれど……。この暑さにもかかわらず殆んど入られませんでした。

7月

みんなに会え

なかった……

スペイン  
ガストニバル  
7月10日、  
色んな人達  
と会え  
る機会  
を失  
たこ  
とでも  
した。  
来年こそは……

お  
くし  
とは  
残念で







安定になり、それが他の寮生にも伝播して棟内は騒然とした雰囲気だった。次に感染を防ぐために様々な事が規制され、寮生のストレスも溜る一方だった。「早く終わってほしい。」この一心で職員も必死だった。しかしながら、終息宣言も済んだ今思うのは集団生活の恐ろしさである。集団であるが故に疎か

から仕方がないというのではなく、できる事から少しずつ見直す必要があるのではないだろうか。寮生さんが今回のようなストレスに見

舞われることなく、健やかに過ごせるためにも、この出来事は忘れてはならないと思う。

「まさか」で始まったA型肝炎が私にとつて寮生さんの日頃の健康チェックと衛生の大切さを知らされました。

いつも食欲旺盛な彼女がその日に限って一口も食べようとせず、まさかと思いつつ午後診察を受けそのまま入院しました。食事がとれず嘔吐を繰り返す彼女に「早く直って欲しい」としか

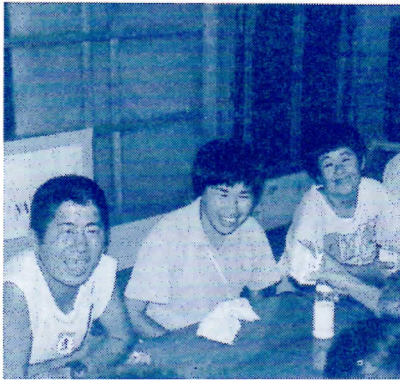
考えられない自分がとても無力に思え、また感染した事の後悔ばかりが頭に浮かびました。

9日目に退院した彼女はすっかり元気になり、車から降りるなり棟に走っていききました。彼女の後ろ姿を見て本当に元気がなってよかったですとも思いました。

長い肝炎生活を送り集団生活での伝染病の恐ろしさを知る事ができました。これからの生活の見直しをしっかりと考えていきたいです。

### 杉山だより

杉山寮建設については、いろいろな人たちのご支援ご協力があり、いよいよ着工というところまでやってきました。予定地の農地転用許可申請、官民境界の確定申請、杉山寮建設委員会の開催、入札の為の段取り、入札執行ならびに施工業者の決定、臨時役員会の開催、



現場視察、これらと並行して建設予定地前の(国道と旧三〇三号線の間)残土による埋め立て事業が

過ぎてしまったような気がします。当初は一ヶ年補助事業と予定してあった(岸本先生所有地ですが)り二ヶ年の補助事業になってしまっ

り二ヶ年の補助事業になってしまっ たことも、見方を変えれば毎年必

(橋本)

8月

優勝できたのに

## S・S 体育大会

折角、優勝できる「ちから」を持っていった(?)のに、今回の騒ぎで参加できませんでした。来年は必ず「優勝」するぞ...のつもり。

食べたかったな...かき氷

いつもは、かき氷、わたあめ、ヨーヨーつり、すいか、わなげなど、沢山の模擬店が出るはずが、今年は何もありませんでした。

最後の最後に、地蔵盆という事でおまいりですが、沢山の食べ物、どこか

## た

で食べた





# 紙すき職人を目指して

## 杉の子班

杉の子班は寮の日課班の中では

最も活動的な人たちが集まっている班と言えましょう。モットー

は「遊び半分、仕事半分。」少々不謹慎な響きを持つ言葉ですが、

その本意は、遊びも十分に、仕事も十分に、遊びに集中するよ

うに仕事にも集中しよう、といった意味であります。つまり昔から言う「よく遊び、よく学べ」を活動の中から体现しようとしている班なのです。今年度から牛乳パックによる紙漉きを活動の柱にすえ、試行錯誤をしながらも、日々着々と取り組んでいます。作った紙は、梅班のフィンガーペイントや、あすなる班のカレンダー作りなどに活用してもらっています。現在は紙作りの工程を通して、一人一人の作業分担の定着を目標にしてい



ますが、行く行くは自分たちもその紙で様々な造形活動に取り組んでいけたらと思っています。また、こうぞ、みつまた、がんばりなどを使った本格的な紙漉きについても、

将来の取り組みとして現在研究中です。



## あすなる班



今年からあすなる班に強力な助っ人が加わり、活気ある活動をしています。また職員もガラッと代わり、パワフルな3名になりました。午前は風呂掃除、それぞれに役割が分担されており、少しずつではありますが自分のものにしていく予定です。午後はカレンダー作りを中心に歩行・園芸・お茶会などでさまざまな活動に取り組んでいます。しかし、なかなかスムーズにいかず、とまどいや不安など数多くありますが、四苦八苦しながらも職員・寮生共に助け合い、「みんなは一人のために、一人はみんなのために」をモットーに、全員で力を合わせて頑張っています。これからもあすなる班をよろしく御願ひします。



# 泉

## ▼おくやみ

つい最近まで落穂寮と一緒に生活をしてきた木村功さんが、先日事故で亡くなられました。ご冥福をお祈り致します。

▽皆さん、ようやく秋がやってきました。一時はどうなることかと思っていた猛暑も、今ほどこへいつたのやら。何もしていかなくてもちゃんと秋はやってくるのです。『そう、何もしていかなくても。』

一学期はA型肝炎の猛威によって本当に何もできませんでした。そればかりか、保護者・学校関係・その他、地域の方々にご迷惑・ご心配をおかけ致しました事をお詫び致します。また、いろいろとご協力頂き誠にありがとうございます。

さて、新学期に入りました。すでに一ヶ月が過ぎていきます。「何もできなかった」とは言えませんが。時計の針とカレンダーばかりを見つめて過ごしてしまつた三ヶ月を教訓として、これからは、彼等の未来を見つめて、日々、すごしていきたいものです。